

# 災害時保健活動における 都道府県と市町村の連携について

～能登半島地震を経験して平時から取り組んでおくべきこと～

令和6年9月3日

令和6年度保健師等ブロック別研修会(近畿ブロック)

和歌山県岩出保健所

池田 和功

1

## 和歌山県DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)

### 活動期間

- 1班: 1月 8日～15日
- 2班: 1月14日～21日
- 3班: 1月21日～28日
- 4班: 1月28日～2月1日



1月1日  
発災

### 活動場所

能登中部保健福祉センター

### メンバー構成

- 保健所長1名
- 保健師2名
- 業務調整員2名(薬剤師、診療放射線技師、検査技師、事務職)

2

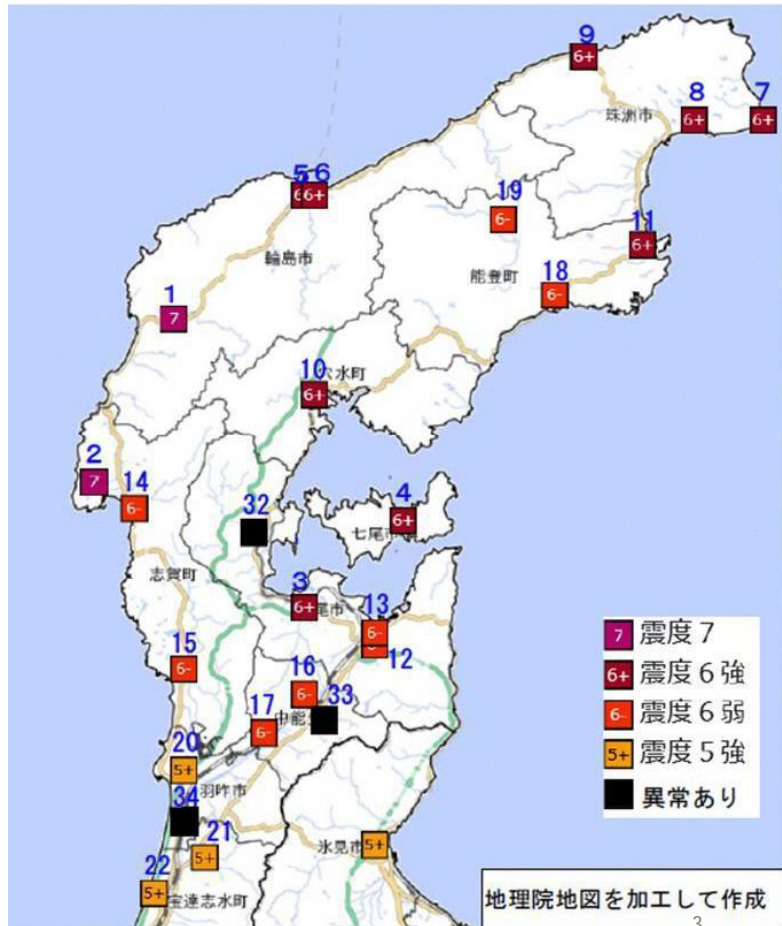
# 能登地震 震度分布

## 地震の概要

- (1) 発生時刻  
令和6年1月1日16時10分頃
- (2) 震源地 石川県能登地方(震源の深さごく浅い)
- (3) 地震の規模  
マグニチュード7.6
- (4) 県内の震度

### 【震度】

- ・震度7：志賀町
- ・震度6強：七尾市、輪島市、珠洲市、穴水町
- ・震度6弱：中能登町、能登町
- ・震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町



気象庁 令和6年1月 地震火山月報(防災編) ●特集「令和6年能登半島地震」より

図8-1 石川県内調査地域(その1)

## ライフライン

### 1月8日(発災7日目)七尾市午前到着時

- ・電気：停電はほぼ解消
- ・水：七尾市内全域断水
- ・通信：固定電話、携帯電話ほぼ通常通り使用可能
- ・コンビニ営業中
- ・スーパー、飲食店：一部営業中
- ・富山県高岡市から石川県七尾市まで高速道路通行可能。七尾市内は一部道路が破損していたが通行は可能。

# 状況把握 能登中部保健所

石川県災害対策本部発表資料より

1月8日

管轄	人口	避難所数	避難者数
七尾市	50,300	33	2,073
志賀町	18,630	14	853
羽咋市	20,407	1	106
中能登町	16,540	4	109
宝達志水町	12,121	2	48
合計	117,998	54	3,189



5

## 七尾市保健センター 訪問(1月8日)

### 健康推進課長と打合せ

#### 状況

- ・避難者数 約2,000人
- ・**保健師チーム** 県外3チーム 保健所1チーム 計4チーム活動中
- ・支援チームミーティングは未実施。個別に報告を受けている。
- ・すべての指定避難所の調査は完了。指定外はまだ残っている。
- ・新たに指定外避難所を発見し増えていく
- ・避難所情報は**D24H(ラピッドアセスメントシート)**で入力している
- ・**地元医師会**が避難所の巡回診療をしている
- ・**歯科医師会チーム**が避難所巡回している

#### 支援方針

- ・保健所とDHEATから合わせて**2名の保健師をリエゾンとして毎日派遣**
- ・保健師チームの**定時ミーティング**を行うことを提案
- ・保健師チームを増員して、保健師チームのエリアライン制を構築する

七尾市保健師と地域を**8エリアに分割(エリアライン制)**する避難所支援計画を作成し、県庁へ**保健師チームの増員を要請**し、**8チーム体制**で運営することを目指すこととなった。

6

# 避難所の情報収集分析(D24H)

ラピッドアセスメントシート 入力サイト(<https://survey.d24h.jp/>)



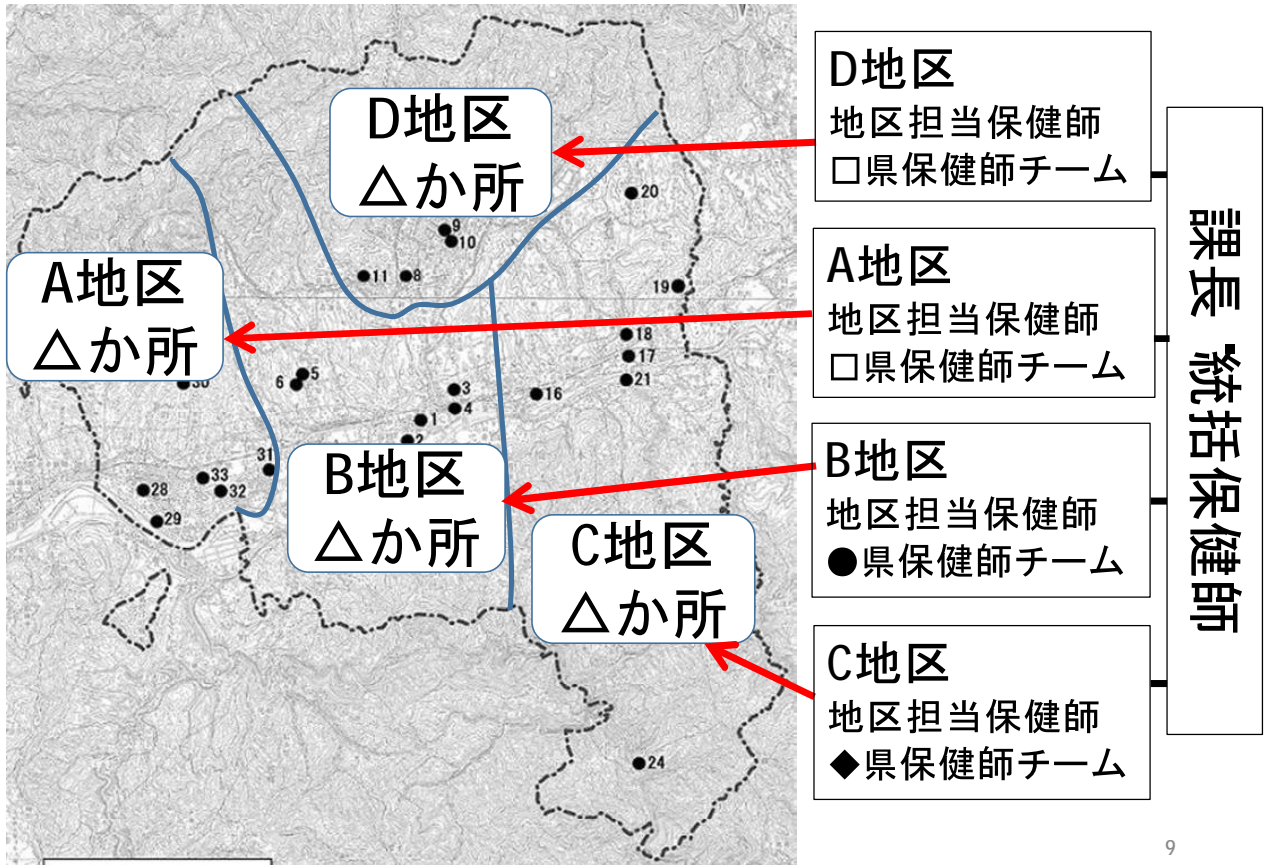
ラピッドアセスメントシート

ラピッドアセスメントシート閲覧 D24H(災害時保健医療福祉活動システム)  
<https://survey-ctr.d24h.jp/assessments>

## 保健師ミーティング(朝と夕方実施)



避難所支援 エリアライン制 イメージ



ミーティング以外は市職員は執務室で活動



## DMAT活動拠点本部(能登総合病院内)訪問(1月8日)

### 状況

- ・DMAT活動拠点本部役割分担:活動指揮班・ロジ支援班・情報班・物資調達班・搬送調整班(病院・介護施設避難)
- ・避難所班:日赤救護班、JMAT(日本医師会)、JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)
- ・DPAT(災害派遣精神医療チーム)
- ・DMAT、日赤救護班、JMATが七尾市、志賀町の避難所で活動中

### 支援方針

- ・DMAT活動拠点本部と保健所の連携のため保健所職員を連絡員(リエゾン)として派遣することとなる
- ・避難所班(日赤救護班)と避難所巡回のあり方について協議
  - 1)保健師チームと避難所巡回の調整が必要ということで、七尾市の保健師から巡回計画を提案し、保健師4チームが対応以外の新規避難所を日赤チームに巡回してもらうことになる
  - 2)七尾市の保健師が、毎日夕方にDMAT活動拠点本部に来て、日赤チームと避難所巡回の調整、打合せを行うこととなった

11

## DMAT活動拠点本部 (能登総合病院内)



12

# 志賀町役場保健福祉課 訪問(1月9日)

## 統括保健師と打合せ

### 状況

- ・避難者数 指定避難所約850人、指定外(12~13か所)450人
- ・福祉避難所(介護施設) 1か所
- ・**保健師チーム** 県外3チーム 保健所1チーム 計4チーム活動中
- ・調査できていない避難所は残り8か所だが、新たに指定外避難所を発見し増えている
- ・**地元医師会**が避難所の巡回診療をしてくれている
- ・**DMAT**が避難所の感染症対応をしてくれている
- ・1月10日から**DWAT**(災害派遣福祉チーム)が活動開始予定
- ・近日に**歯科医師会チーム**が活動予定

### 支援方針

- ・保健所とDHEATから合わせて2名の保健師をリエゾンとして毎日派遣
- ・保健師チームを増員して、保健師チームのエリアライン制を構築する
- ・保健師チームの定時ミーティングを行う

13

## 市町訪問(1月10日)

### 宝達志水町訪問

- ・避難所1か所、避難者数34名
- ・町保健師が健康観察、羽咋郡市医師会が巡回診療実施。
- ・介護施設は問題なし。

### 羽咋市訪問

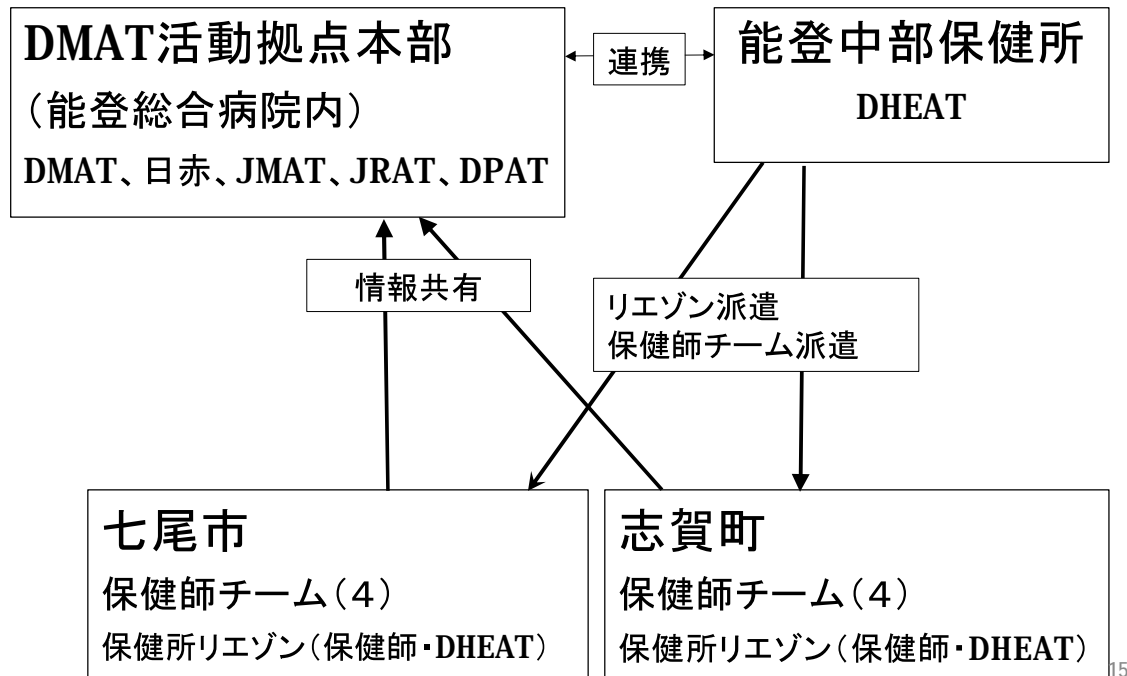
- ・避難所1か所、避難者数105人。
- ・市保健師で避難所管理、感染対策・隔離対応も実施。
- ・羽咋郡市医師会が巡回診療実施。
- ・介護施設は1か所が避難、その他問題なし。
- ・在宅避難者の訪問は今後予定。
- ・在宅要介護者対象にケアマネが活動開始、サービスも再開。

### 中能登町訪問

- ・避難所3か所、避難者数100名。
- ・断水半数の世帯で解消
- ・訪問看護師が夜間も含めて巡回対応してくれる。
- ・有症状者は近隣医療機関受診。
- ・在宅独居高齢者の訪問を予定している。
- ・介護施設は断水の問題はあるものの対応可能。

14

# 1月第2週の組織間連携状況

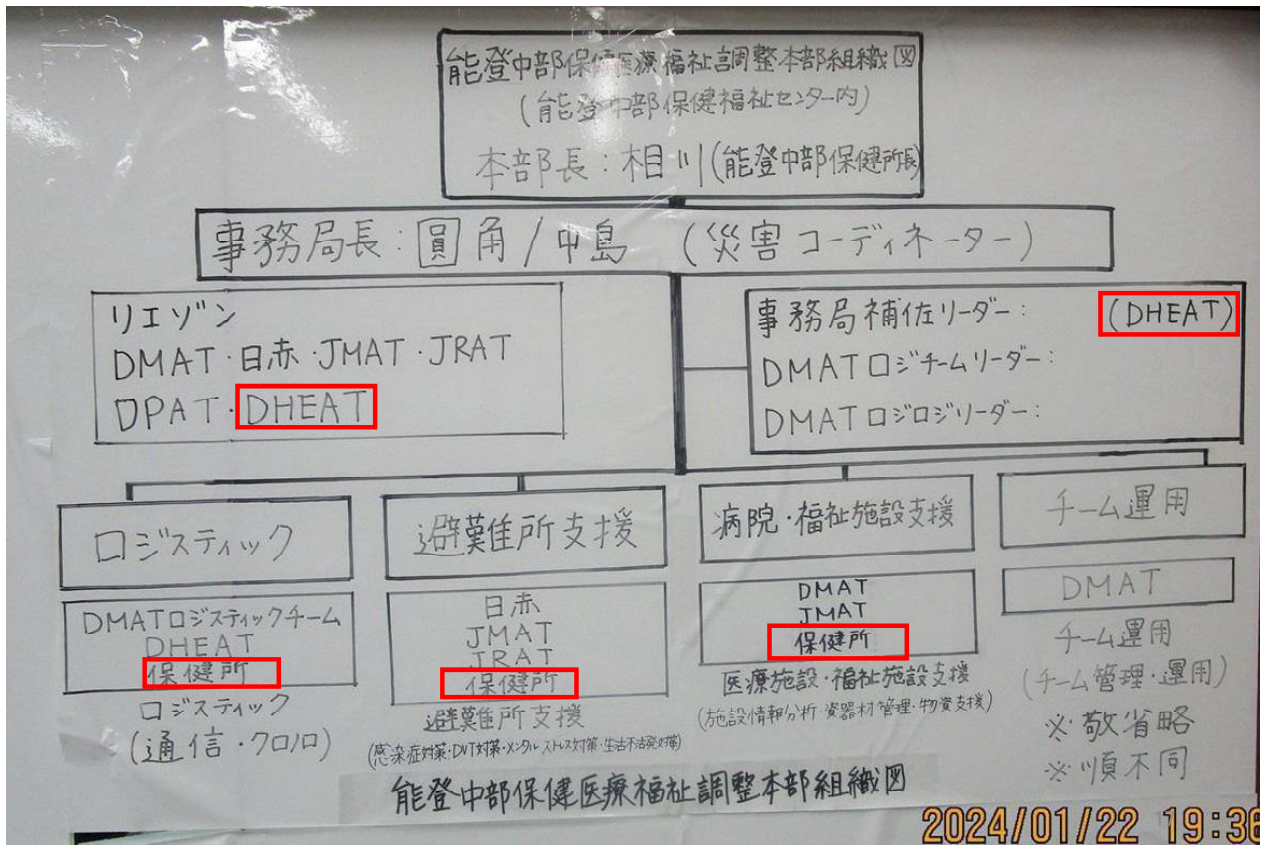


## 保健師チームと医療チームの連携例

- ・保健師チームと医療チーム(DMAT、日赤救護班など)がそれぞれ避難所訪問していたため、訪問先が重複することがあった。夕方にミーティングをして、翌日の訪問先を調整した。
- ・避難所訪問で受診が必要な方がいたら、保健師チームから医療チームに診察を依頼する。
- ・避難所の感染対策について、医療チームに巡回を依頼し、専門的に指導してもらう。
- ・1月下旬から保健師チームの在宅避難者訪問が始まったので、その間避難所訪問を医療チームにお願いした。
- ・避難所支援する保健医療チームはOpenChatを使って連絡を取り合った。



# 能登保健所内に能登中部保健医療福祉調整本部設置

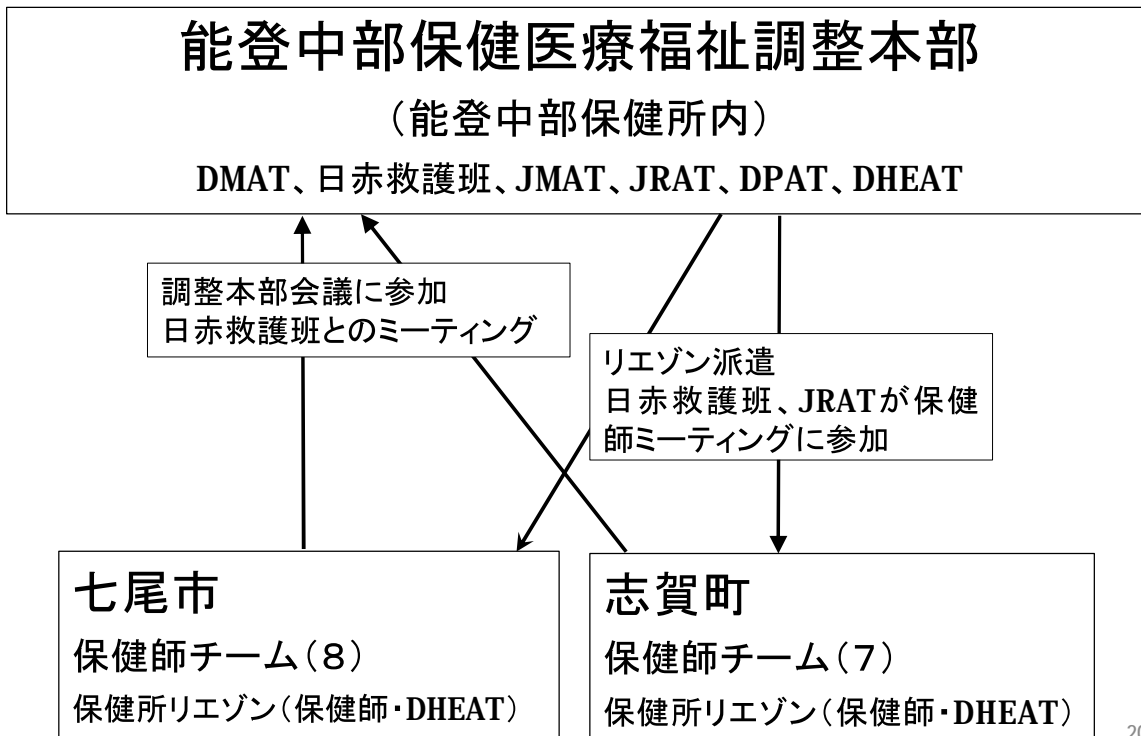


# 能登中部保健医療福祉調整本部(能登保健所内)





## 1月第3週以降の組織間連携状況



# 七尾市ミーティングに日赤救護班が参加



# 七尾市ミーティングに JRAT、DWATが参加



## ここまでのまとめ

- ・保健所から市町に保健師をリエゾンとして派遣し常駐する
- ・リエゾン保健師は市町統括保健師等と一緒に避難者支援について考える
- ・保健師チームミーティングを行い、チーム間の情報共有を行う
- ・保健所は、市町と保健医療チームが連携できるようにつなぐ
- ・市町保健師は、日赤救護班とのミーティング、保健医療福祉調整本部会議への出席を通じて保健医療チームと連携する。
- ・保健師チームと医療チームは各々の特徴を生かしながら、役割分担、連携して避難者支援を行う
- ・保健医療チーム(日赤、JRAT、DWAT)は保健師ミーティングに参加して保健師チームと連携する

23

## 都道府県と市町村の連携について 平時から取り組んでおくべきこと

- ・災害に限らず様々な業務で連携しておく

例：医療と介護の連携推進事業

精神保健事業(自立支援協議会)

母子保健事業

成人保健(健康増進計画、地域食育連携推進事業、糖尿病性腎症重症化予防事業)

保健師人材育成、保健師勉強会

- ・災害対策の研修や訓練を一緒にする

24

# 市町村初動訓練

- ・市町村の保健部局、防災部局と一緒に初動アクションカードを作成し、実動訓練を実施する。
- ・保健所と市町村保健部局、さらに、防災部局とも連携できる
- ・初動時の対応が具体的にわかる

AC リーダー 1  
Command & Control(指揮と統制)

## Action 1

災害発生後、**役場前**に参集した職員からリーダーを決めます。その他の職員は、リーダーの指示に従います。



# 誰でも初動対応ができるようになるために

- ・初動アクションカードの内容ができるようになるまで、すべてのアクションを確認し、実際に実行してみる

AC リーダー 4  
Safety(安全確保) 3

## Action 4

リーダーは、ライフラインを確認する担当者を指名する。

- ・水: 上水道使用不可の場合は、**受水槽の水**が使える可能性がある。受水槽の水も使用できない場合は、後ほど災害対策本部(ふるさとセンター4階)に**備蓄水**をもらいに行く。
- ・電気: 停電の場合、後ほど**ポータブル発電機を駐車場倉庫にとりに行く**。発電機使用時は、コピー機など容量の大きい機器は使用を控える。
- ・トイレ: 水が流せない場合、携帯トイレを使用する



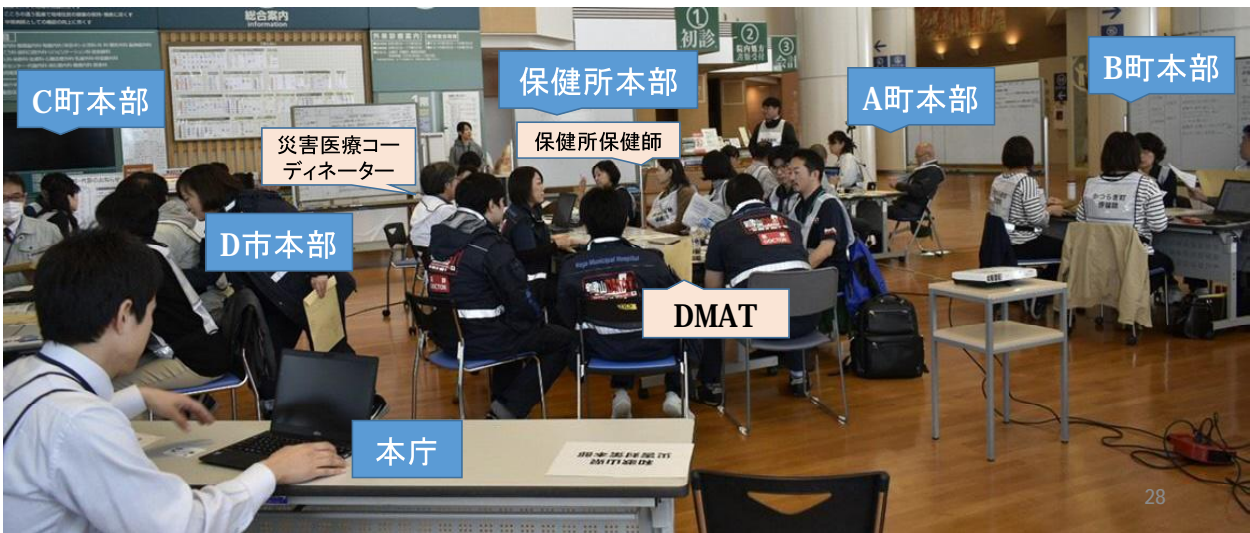
倉庫に発電機等必要物品  
を取りに行く

発電機の使い方を練習

照明も確保しました



# 保健所、市町、災害医療コーディネーター、DMATと災害対応訓練



C町本部

保健所本部

A町本部

B町本部

災害医療コーディネーター

保健所保健師

D市本部

DMAT

本庁

# まとめ

## 災害時保健活動における都道府県と市町村の連携について ～能登半島地震を経験して平時から取り組んでおくべきこと～

- ・普段から保健所と市町村が業務などで連携して顔見知りになっていると災害時にも連携しやすい。
- ・市町村は、防災部局や医師会、薬剤師会とも連携できているとより良い
- ・保健所は、災害時に市町、保健医療チームをつないで、連携を広げる役割を担う
- ・災害対応訓練は、保健所と市町村はもちろん、地元医師会、薬剤師会、さらに、地元の保健医療チーム(DMATなど)とも合同で行い、顔見知りになると同時に各チームの特徴を理解しておくことよい

